

五月例会御案内

(平成二十六年・通算第六四三回)

公益財団法人協和協会

<http://www.kyowak yokai.or.jp>

○御案内

五月二十八日(水) 正午～午後二時半

衆議院第一議員会館 地下一階・第六会議室

議題 海上保安庁の業務について——平成二十五年の活動を中心として

講師 中村 明先生(海上保安庁政策評価広報室長)

平成二十二年九月七日に、尖閣諸島海域で、中国漁船が海上保安庁の巡視船に体当たりをして以来、国民はこの三年半ほどの間、ニュースなどで、「海上保安庁」という官庁があることはよく耳にしております。しかし、この官庁がどこに属するのか訊ねると、警察庁とか防衛省と答えられる方もおられます。そこで、今回は、「海上保安庁」が、国土交通省に属しており、広範な日本列島の領土・領海・領空をいかに守ってくれているのかにつき、その広報御担当官においでいただき、御解説をうかがいます。

私は、そのDVDを見たことがあります。海上保安庁の隊員・職員の訓練ぶりは、想像を絶するものがあり、また、尖閣諸島はじめ日本列島の領土・領海・領空を守る日常業務には、本当に頭の下がる思いでした。海上保安庁は、あまり宣伝をしない官庁ですが、今回は特別に、お願いして、お話しただくことにいたしました。重要課題、なにとぞ奮っての御参加を!

(清原記)

◎ 当日会費 四千円(昼食・講師料ほか) 五月二十六日(月)までに欠の御連絡賜りたく

当日連絡先 080-8836-6203・重田

□ 御報告

080-9292-2620・高津

四月の月例会は、いつもの月例講話会となり、六本木の国立新美術館三階の展示室にて十日間にわたり開催されている「現代日本書家協会」主催『全国公募書道展』初日・四月十六日の午前十一時現地集合にて、その書道展の展示作品を会長の解説付きで鑑賞いたしました。と申しますのは、この催しは、当「公益財団法人協和協会」が共催している毎年の催しで、今年はその「第三十回 全国公募書道展」という節目に当たり、また当財団も、以前より応援してきていますので、四月の月例会は、『全国公募書道展』の鑑賞会といたしました。いま、この「現代日本書家協会」の『全国公募書道展』の由来について触れておきますと、

昭和六十一年のお正月ごろ、愛媛県今治市在任の関西で有名な書道家・大西東泉師が上京して清原を訪ねて来られました。うかがうと、「戦前は、書道が必須科目であったが、戦後、必須科目でなくなりました。日本は、漢字文化が衰えつつある。書を書くという事は、日本人の精神文化である。そこで、『現代日本書家協会』を創り、全国に呼びかけ、年一回、全国公募書道展を開いている。ついでに、厳格な審査を経た上で、その優秀者へ、内閣総理大臣賞、衆・参議長賞、関係大臣賞を出すようにしていただけないでしょうか」との陳情であった。

そこで、清原が、岸信介会長にお諮りすると、岸先生は、「なるほど、それは教育上、意義あることだから、私の名前で、その手配を進めてくれ」と言われたので、総理官邸、衆・参議長室、関係大臣室を廻ってお願ひし、以来、毎年、賞状を下付していただいている、という経過です。その大西東泉先生も毎年一万点もの作品を審査することから心臓を悪くされ、この公募展事業を、立派な書道家に引き継ぎたいとの申し出があり、岸先生とのお縁も深い書道家の大日方鴻允先生に引継ぎ、今日、三代目の大日方鴻允会長に至っているという経過です。

(清原記)

▽ 当(公財)協和協会は「各界の志ある指導者・経験者が、党派・利害・打算を超えて、真に国家的見地から、我が国立国の基礎をなす諸課題を検討して、世の中に貢献しよう」との趣旨にて昭和四十九年、岸信介元総理によって創設された財団。第二代会長は福田赳夫元総理。第三代会長は櫻内義雄元衆議院議長、第四代会長は塩川正二郎元財務大臣。平成二十一年六月より会長代行として江口一雄元衆議院議員が就任。理事長は引き続き半田晴久が就任している。会員は、政・財・官・学・民各界の有志がバランスよく集まっている。国会議員・同秘書は、随時参加自由。この月例講話会のほか、内部には、十五ほどの専門的な部会・委員会があり、これまでに、政府へ提出した意見書・要請書は、百三十七本に達している。

▽ 事務局電話(03) 3581-1192 専務理事兼事務局長・清原淳平、総務 重田、高津

◎ 同封のハガキまたはFAXにて、五月二十六日(月)までに、着信をお願い申し上げます。

▼ 事務局FAX(03) 3507-8587

御芳名

貴方様のFAX番号

五月二十八日(水) 正午～午後二時半 出・欠 衆議院第一議員会館地下一階第六会議室